

3-P-12

## 歯間ブラシの定着率に影響を与える因子に関する研究 —歯間ブラシの材質からの考察—

東 麻夢可<sup>1)</sup>三分一恵里<sup>2)</sup> 西村瑠美<sup>3)</sup> 金久弥生<sup>2)</sup> 梶田恵介<sup>4)</sup> 原 久美子<sup>1)</sup>

歯周疾患予防には、初発部位とされる歯間乳頭部のプラーク除去が重要であることから、歯間ブラシの普及・定着は緊急の課題と考える。本研究は、材質の違いが歯間ブラシの定着に影響を与えるという仮説をたて、調査を行った。対象は、50歳以上の健常成人・高齢者で、本研究への同意が得られた91名である。初回調査は、唾液検査、質問紙調査、歯間ブラシの配布と説明を行い、3か月後、追跡可能であった対象者42名に郵送にて質問紙調査を行った。唾液検査は、う蝕原生菌など口腔内の健康状態を評価した。質問紙は、初回は①歯間ブラシ使用状況、②ナイロン毛タイプ・ゴムタイプに関する質問、3か月後は①歯間ブラシ使用状況の調査を行った。唾液検査結果は、歯間ブラシ使用者が未使用者に比べて口腔内状態は良い傾向にあった。質問紙調査では、3ヶ月後調査時のナイロン毛タイプ使用者は、ゴムタイプに比べてナイロン毛タイプの方が「清掃性が高い」「気持ちよく清掃ができる」「むし歯・歯周病の予防ができる」「保管がしやすい」と回答した割合が高かった。3か月後調査時のゴムタイプ使用者は、ナイロン毛タイプに比べてゴムタイプの方が「歯ぐきに当たる感覚が良い」「歯間に入れるのは抵抗がない」「歯ぐきを傷つけない」と回答した割合が高かった。歯間ブラシの定着には、疾患予防効果や保管のしやすさに加え、清掃性や歯肉への刺激などの材質が影響することがうかがえた。

---

1) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 2) 明海大学保健医療学部口腔保健学科  
3) 広島大学大学院医系科学研究科口腔保健疫学研究室  
4) 小林製薬株式会社ヘルスケア事業部研究開発部